

砂糖の価格調整業務実績について (平成30砂糖年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、輸入糖、異性化糖および輸入加糖調製品から調整金を徴収し、それらを財源として国内のさとうきび生産者やてん菜糖・甘しゃ糖の製造事業者に支援を行うことで内外価格差を調整し、国内の砂糖の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、平成30砂糖年度（平成30年10月1日～令和元年9月30日〈以下「30SY」という〉）における砂糖の価格調整業務実績についてとりまとめたので、報告する。

なお、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（TPP11協定）の発効に伴い、平成30年12月30日から砂糖とココア粉や粉乳な

どを混合した輸入加糖調製品が調整金の徴収対象として新たに追加された。輸入加糖調製品に係る「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」の改正概要是、2018年8月号の砂糖類・でん粉情報に掲載しているので参照されたい。

1. 調整金徴収業務

(1) 30SYの指標価格など

30SYの指標価格などは表1の通り。

(2) 砂糖の需要と供給

令和元年12月に農林水産省が公表した30SYの砂糖の需給見通し（実績）は、表2、3の通り。

表1 30SYの指標価格など

	29SY	30SY
砂糖調整基準価格	153,200円／製品トン	153,200円／製品トン
指定糖調整率	37.00%	37.00%

（平成30年9月28日農林水産省告示2143号）

注1：砂糖調整基準価格とは、輸入粗糖と国内産糖との価格調整の基準となる金額。

注2：指定糖調整率とは、粗糖の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外の粗糖のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表2 砂糖の需給見通し

(単位:千トン)

		平成29砂糖 年度(実績)	平成30砂糖年度(実績)				1,835	
			10-12月	1-3月	4-6月	7-9月		
消費量	分蜜糖	1,861	495.5	419.8	465.4	454.6	1,835	
	含蜜糖	36	6.6	11.1	10.7	7.9	36	
	合計	1,897	502.1	430.9	476.1	462.5	1,872	
供給量	国内産糖	分蜜糖	784	363.4	334.5	36.1	-	734
		含蜜糖	10	0.8	7.0	3.5	-	11
		小計	794	364.2	341.5	39.6	-	745
	輸入糖	分蜜糖	1,123	329.8	189.8	297.3	329.4	1,146
		含蜜糖	10	1.7	3.2	2.8	1.0	9
		小計	1,133	331.5	193.0	300.1	330.4	1,155
	合計	分蜜糖	1,907	693.2	524.3	333.4	329.4	1,880
		含蜜糖	20	2.5	10.2	6.3	1.0	20
		小計	1,927	695.7	534.5	339.7	330.4	1,900
期末在庫		311	502.1	578.8	457.7	331.6	332	

資料：農林水産省「令和元砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第2回)」

注1：分蜜糖は精糖ベースの数量、含蜜糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分蜜糖供給量は、機構売買数量である。

表3 砂糖および異性化糖の需給総括表

砂糖 年 度	総需要量		国内産糖生産(供給)量				輸入量	1人当たり 消費量	異性化糖 需要量			
	千トン	%	千トン	千トン	てん菜糖							
					白糖	原料糖						
昭和50	2,877	5.6	449	224	224	-	213	2,351	25.6	-		
60	2,655	0.5	870	574	574	-	285	1,779	21.9	617		
平成7	2,435	▲1.5	842	650	491	159	183	1,606	19.4	733		
12	2,293	▲0.3	730	569	446	123	153	1,483	18.1	741		
13	2,277	▲0.7	840	663	471	192	170	1,405	17.9	761		
14	2,296	0.8	875	721	469	252	143	1,480	18.0	768		
15	2,237	▲2.6	904	743	463	280	153	1,364	17.5	791		
16	2,229	▲0.4	912	784	477	307	121	1,272	17.5	796		
17	2,165	▲2.9	839	699	452	247	132	1,326	17.0	790		
18	2,181	0.7	800	643	451	192	148	1,346	17.1	801		
19	2,197	0.7	861	683	454	229	169	1,380	17.2	824		
20	2,136	▲2.8	878	683	451	232	186	1,222	16.7	784		
21	2,099	▲1.7	861	683	433	250	168	1,263	16.5	803		
22	2,095	▲0.2	655	490	424	66	156	1,431	16.4	806		
23	2,039	▲2.7	674	564	446	118	104	1,375	16.0	812		
24	2,026	▲0.6	691	561	416	145	122	1,338	15.9	827		
25	2,006	▲1.0	687	551	410	140	129	1,284	15.8	812		
26	1,971	▲1.7	737	607	410	197	122	1,220	15.5	792		
27	1,983	0.6	813	676	423	253	129	1,235	15.6	818		
28	1,957	▲1.3	688	505	400	105	173	1,214	15.4	832		
29	1,921	▲1.8	794	656	432	224	128	1,111	15.2	832		
30	1,895	▲1.3	745	614	401	213	120	1,183	15.0	824		
令和元 (見通し)	1,911	0.8	804	658	415	243	133	1,045	15.1	832		

資料：農林水産省「令和元砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第2回)」

注1：分蜜糖は精製糖ベースの数量、含蜜糖については製品ベースの数量、異性化糖は標準異性化糖(果糖55%ものの固形ベース)に換算した数量である。

注2：国内産糖生産量と輸入量の合計と総需要量の差は在庫変動である。

注3：国内産糖生産量の合計には含蜜糖生産量を含む。

注4：総需要量は、分蜜糖消費量、含蜜糖消費量および工業用などの合計である。

注5：輸入量は、通関実績の数値である。

(3) 国際相場などの動き

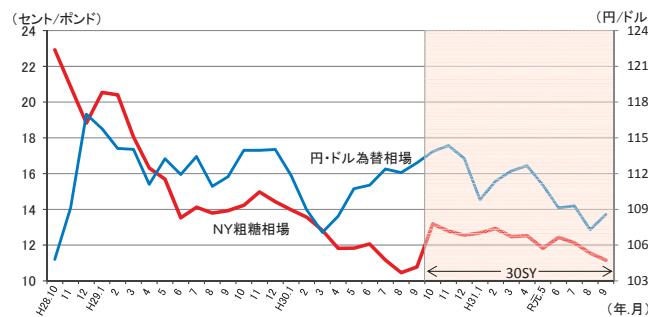
ニューヨーク粗糖先物相場（期近）は、平成28年10月に1ポンド当たり23セント台を記録した後、世界的な供給過剰感を背景に弱含みで推移し、30SY直前の30年9月26日にはインド政府が想定を上回る規模の輸出支援策を打ち出したことから同9.90セントと、20年以来の低水準となった。30SYにおいても、主要な砂糖生産国であるブラジルにおける生産量が前年度よりも増加した影響や、インドの輸出補助金政策の継続などにより、同10～14セント台で推移した。

具体的には、30年9月末には同10セント前後の水準であったが、ブラジル大統領選でエタノール政

策推進に意欲的な候補が首位に立ったことや、主要生産国での生産見通しの下方修正により、10月24日に同14.01セントまで上昇した。その後原油価格下落や世界的な供給過剰感から、31年1月3日に同11.69セントまで下落したものの、石油輸出国機構（OPEC）主導の原油協調減産による原油高や、インドの減産懸念により2月20日には同13.44セントを付けた。

3月以降はおおむね同12～13セント台で推移していたが、8月から9月にかけては、インド政府による10月以降の輸出補助金支出発表、インド、タイの砂糖生産量上方修正などの弱材料が重なり、9月12日には同10.76セントに下落した。

図1 ニューヨーク粗糖先物相場および為替相場（30SY）の月平均の推移



資料：インターチェンジナル取引所、三菱東京UFJ銀行公表相場

(4) 粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格など

30SYにおける粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格などは表4～6の通り。

表4 粗糖の平均輸入価格など

		粗糖 平均輸入価格 (円/トン)	粗糖（円/トン）				粗糖NY相場		為替 (円/ドル)
			買入価格	売戻価格	軽減額	調整金単価	(セント/ポンド)	(ドル/トン)	
28SY	平成28年 10月～12月	56,070	56,070	92,008	-	35,938	20.05	442.02	103.53
	29年 1月～3月	61,070	61,070	95,158	-	34,088	21.18	466.93	108.92
	29年 4月～6月	62,110	62,110	95,813	-	33,703	19.79	436.29	115.27
	29年 7月～9月	50,610	50,610	88,568	-	37,958	15.58	343.48	112.12
29SY	29年 10月～12月	47,020	47,020	86,307	-	39,287	13.91	306.66	111.93
	30年 1月～3月	48,600	48,600	87,302	-	38,702	14.77	317.97	113.92
	30年 4月～6月	45,400	45,400	85,286	-	39,886	13.64	300.74	110.01
	30年 7月～9月	40,290	40,290	82,067	-	41,777	11.93	263.02	109.80
30SY	30年 10月～12月29日	38,790	38,790	81,122	-	42,332	10.92	240.79	112.25
	30年 12月30日～31日	38,790	38,790	77,722	3,400	38,932	10.92	240.79	112.25
	31年 1月～3月	44,110	44,110	81,073	3,400	36,963	12.70	279.92	114.07
	31年 4月～令和元年6月	42,920	42,920	80,324	3,400	37,404	12.67	279.24	111.16
	元年 7月～9月	41,790	41,790	79,612	3,400	37,822	12.28	270.65	111.20

表5 加糖調製品糖の平均輸入価格など

期 間		加糖調製品糖 平均輸入価格 (円/トン)	加糖調製品糖 標準価格 (円/トン)
30SY	平成30年 12月30日～31日	115,368	192,120
	31年 1月～3月	115,341	197,436
	31年 4月～令和元年6月	114,628	196,249
	元年 7月～9月	111,382	195,118

表6 異性化糖の平均供給価格など

期 間		平均供給価格 (A) (円/トン)	異性化糖 標準価格 (B) (円/トン)	B-A
28SY	平成28年 10月～12月	120,820	119,923	▲ 897
	29年 1月～3月	125,874	123,001	▲ 2,873
	29年 4月～6月	128,423	123,703	▲ 4,720
	29年 7月～9月	127,278	117,234	▲ 10,044
29SY	29年 10月～12月	121,241	114,523	▲ 6,718
	30年 1月～3月	122,548	115,398	▲ 7,150
	30年 4月～6月	123,271	113,616	▲ 9,655
	30年 7月～9月	125,528	110,819	▲ 14,709
30SY	30年 10月～12月	127,008	109,793	▲ 17,215
	31年 1月～3月	127,883	112,871	▲ 15,012
	31年 4月～令和元年6月	127,159	109,080	▲ 18,079
	元年 7月～9月	127,624	108,464	▲ 19,160

(5) 売買実績

ア. 指定糖

30SYの指定糖の売買数量は、前年度比1.8%増の119万トン（実数量）、売買差額は、前年度比5.1%減の480億円となった。売買数量が増加した主な要因は、分蜜糖消費量が前年より減少した中、国内産の分蜜糖供給量がそれ以上に減少したことによる。また、売買差額の減少については、30年12月30日より、調整金単価の算定において1000キログラムにつき3400円の加糖調製品軽減額が適用されたことが影響している。

イ. 輸入加糖調製品

30SYの輸入加糖調製品の売買は実質的には平成31年1月から開始された。売買対象となる輸入加糖調製品は、原則しょ糖含有量50%以上のものと

して糖価調整法の政令で指定されている関税分類上の20ラインが対象となっている。1月から9月の売買数量は35万トン、売買差額は44億円となった。

なお、当該ラインの対象物品であってもTPP11協定および日EU経済連携協定に基づく関税割当を受けて輸入されるものは、機構の売買対象外となっている。

ウ. 異性化糖

30SYの異性化糖の売買は、全期間を通じて異性化糖の平均供給価格（機構の買入価格）が異性化糖標準価格（機構の実質的な売戻価格）を上回ったことから、売買は行われなかった。

表7 指定糖、輸入加糖調製品の売買実績

SY	指定糖		輸入加糖調製品		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買金額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
28	1,240	48,198	-	-	48,198
29	1,168	50,532	-	-	50,532
30	1,190	47,955	348	4,408	52,363

2. 交付金交付業務など

(1) 甘味資源作物および国内産糖の生産動向

ア. てん菜・てん菜糖

平成30年産は、農林水産省の需給見通しによると、30年6月中旬以降に多雨・寡照となり生育が

停滞したものの、9月以降は好天に恵まれて生育は良好となった。前年産が豊作であったため、それとの比較では減少しているが、作付面積が約930ヘクタール（前年産比1.6%）減少した中で、生産量は平年並みの361万トン、産糖量も61.5万トンとなった。

表8 てん菜・てん菜糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
28	59,390	53.69	3,189	15.84	505
29	58,139	67.10	3,901	16.83	657
30	57,209	63.11	3,611	17.03	615

出典：農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」

イ. さとうきび・甘しゃ糖

平成30年産の鹿児島県および沖縄県のさとうきびは、農林水産省の需給見通しによると、梅雨期の降水量が少なく各地域で干ばつが発生したほか、台

風が複数回襲来したことで一部地域に被害が見られることにより、両県を合わせた生産量は前年度比7.8%減の120万トン、産糖量は同6.0%減の12.6万トンとなった。

表9 鹿児島産さとうきび・甘しゃ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖 原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
28	10,020	63.49	636	99.05	12.19	77
29	9,877	53.46	528	98.84	10.73	56
30	9,436	47.97	453	98.79	11.43	51

出典：農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」

表10 沖縄産さとうきび・甘しゃ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖 原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
28	12,938	72.44	938	92.50	12.07	105
29	13,809	55.67	769	90.88	11.18	78
30	13,145	56.49	743	90.46	11.16	75

出典：農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」

(2) 交付金の交付状況など

ア. 甘味資源作物交付金(さとうきびのみ)

さとうきびの収穫期はおおむね12月から翌5月ごろまでであり、製造事業者への売渡しに応じて交付金を交付している。平成30年産は、鹿児島県・沖縄県ともに減産であることから、交付決定数量は前年度比8.4%減の112万トン、交付決定金額は同

6.0%減の185億円と減少した。

なお、国内産糖の販売価格の指標となる輸入粗糖の機構売戻価格が、加糖調製品軽減額の設定に伴い引き下げられたことから、それに見合う交付金単価の期中改定(30年12月30日に改定。以下、国内産糖の交付金単価の期中改定も同理由による。)が行われた。

表11 甘味資源作物交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	数量 (千トン)	金額 (百万円)	(参考) 基準糖度帯
28	16,420	1,496	25,240	13.1度～14.3度
29	16,420	1,220	19,638	13.1度～14.3度
30	～12/29	16,420	1,118	13.1度～14.3度
	12/30～	16,630		

注) 品質に応じ糖度が基準糖度帯を下回る場合は、0.1度につき100円/トンを減額、基準糖度帯を上回る場合は、0.1度につき100円/トンを増額する。

イ. 国内産糖交付金

(ア). てん菜糖の交付状況

てん菜糖の製造事業者の販売は年間を通じて行われ、これに応じて交付金を交付している。30SY

は、当年産の減産により交付決定数量は前年度比2.2%減の60.1万トンとなった一方、交付金単価が引き上げられたため、交付決定金額は同29.1%増の141億円となった。

表12 てん菜糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	数量 (千トン)	金額 (百万円)
28	20,618	544	11,250
29	17,564	614	10,950
30	～12/29	21,432	601
	12/30～	24,992	

(イ). 甘しゃ糖の交付状況

甘しゃ糖の製造事業者が製造した粗糖は、製糖後それほど期間をおかず精製糖メーカーに販売されるため、操業時期に対応して交付金を交付している。

30SYは、さとうきびの減産により、交付決定数量は前年度比6.0%減の12.6万トンとなったが、交付金単価の引き上げにより、交付決定金額は同7.0%増の83億円と増加した。

表13 甘しゃ糖交付金交付決定実績の推移

SY	交付金単価 (円/トン) ※	鹿児島県産		沖縄県産		合計	
		数量 (千トン)	金額 (百万円)	数量 (千トン)	金額 (百万円)	数量 (千トン)	金額 (百万円)
28	61,090	77	4,509	104	6,796	181	11,305
29	56,200	56	3,067	78	4,711	134	7,777
30	～12/29	60,902	3,148	75	5,175	126	8,323
	12/30～	62,656					

※交付金単価は平均値(実際は島ごとに設定)

(3) 国庫納付金納付業務（てん菜）

てん菜生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、農林水産大臣からの通知に従い、30SY（発生ベース）は、調整金収入などから200億円を国庫に納付する予定である。

しかしながら、30SYはてん菜糖の産糖量が減少したほか、てん菜の直接支払交付金の単価が据え置かれ、その一方で他の交付金の単価引き上げがあつたことから、相対的にてん菜への納付率が小さくなり、29SYより9億円減少する見込みである。

表14 国庫納付金納付実績

SY	国庫納付金額 (百万円)
28	14,821
29	20,904
30（見込み）	19,999

(4) 砂糖の価格調整業務における収支（見込み）

30SYの収入については、平成30年12月30日から始まつた輸入加糖調製品の売買によって、収入構

造が大きく変化した。まず、輸入加糖調製品からの調整金が新たな収入となつた。一方で、粗糖の調整金単価に1000キログラム当たり3400円の加糖調製品軽減額が適用されたことで、指定糖からの収入は前年度より減少した。収入全体としては前年度より14億円増加し、617億円（国費収入含む）となつた。

支出については、加糖調製品軽減額の発生により各交付金単価が期中改定で引き上げられたこともあり、支出合計は前年度より17億円増加し、610億円と見込まれる。

以上により、30SYにおける調整金収支は、7億円の黒字（前年度は10億円の黒字）と見込まれる。

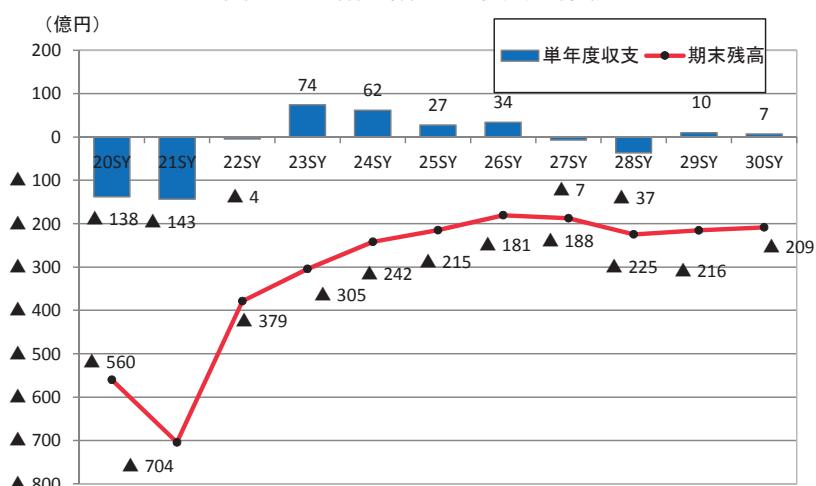
表15 30SY収支前年度比較

（単位：億円）

	28SY	29SY	30SY	対29SY 増減
収入	590	603	617	14
支出	627	593	610	17
てん菜糖	112	110	141	32
甘しゃ糖	113	78	83	5
てん菜（国庫納付）	148	209	200	▲9
さとうきび	252	196	185	▲12
単年度収支	▲37	10	7	▲3

注：ラウンドの関係で増減が一致しない場合がある。

図2 砂糖の調整金収支の推移



注1：ラウンドの関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。

注2：22SYに糖価調整緊急対策交付金329億円を充当（単年度収支には含まない。）